

2018
講義要綱
SYLLABUS

北翔大学大学院
GRADUATE SCHOOL, HOKUSHO UNIVERSITY

平成30年度 北翔大学大学院 学事日程

月	火	水	木	金	土	日	備考
						4/1	
4/2	4/3 在学生オリエンテーション	4/4 入学式	4/5 オリエンテーション	4/6 オリエンテーション	4/7	4/8	
4/9 ①	4/10 ①	4/11 ①	4/12 ①	4/13 ①	4/14	4/15	教育学科養護教諭コース3年次 養護実習：4/9～4/27
4/16 ②	4/17 ②	4/18 ②	4/19 ②	4/20 ②	4/21	4/22	
4/23 ③	4/24 ③	4/25 ③	4/26 ③	4/27 ③	4/28	4/29	昭和の日
4/30 振替休日	5/1 7/16の振替休日	5/2 9/24の振替休日	5/3 憲法記念日	5/4 みどりの日	5/5 こどもの日	5/6	
5/7 ④	5/8 ④	5/9 ④	5/10 ④	5/11 ④	5/12	5/13	
5/14 ⑤	5/15 ⑤	5/16 ⑤	5/17 ⑤	5/18 ⑤	5/19	5/20	こども学科2年次 教育実習：5/14～6/1
5/21 ⑥	5/22 ⑥	5/23 ⑥	5/24 ⑥	5/25 ⑥	5/26	5/27	
5/28 ⑦	5/29 ⑦	5/30 ⑦	5/31 ⑦	6/1 ⑦	6/2	6/3	健康福祉学科(介護)4年次 訪問介護実習：6/18～6/29
6/4 ⑧	6/5 ⑧	6/6 ⑧	6/7 ⑧	6/8 ⑧	6/9	6/10	健康福祉学科(介護)2年次 介護基礎実習：6/27～6/29
6/11 ⑨	6/12 ⑨	6/13 ⑨	6/14 ⑨	6/15 ⑨	6/16	6/17	
6/18 ⑩	6/19 ⑩	6/20 ⑩	6/21 ⑩	6/22 ⑩	6/23	6/24	
6/25 ⑪	6/26 ⑪	6/27 ⑪	6/28 ⑪	6/29 ⑪	6/30	7/1	
7/2 ⑫	7/3 ⑫	7/4 ⑫	7/5 ⑫	7/6 ⑫	7/7	7/8	
7/9 ⑬	7/10 ⑬	7/11 ⑬	7/12 ⑬	7/13 ⑬	7/14	7/15	
7/16 海の日⑭	7/17 ⑭	7/18 ⑭	7/19 ⑭	7/20 ⑭	7/21	7/22	
7/23 ⑮	7/24 ⑮	7/25 ⑮	7/26 ⑮	7/27 ⑮	7/28	7/29	教育学科4年次 保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ：8月
7/30 補講・試験日(月)	7/31 補講・試験日(火)	8/1 補講・試験日(水)	8/2 補講・試験日(木)	8/3 補講・試験日(金)	8/4	8/5	教育学科養護教諭コース2年次 看護学臨床実習：8月中
8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11 山の日	8/12	健康福祉学科(介護)3年次 介護実習Ⅱ：8/20～9/28
8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	健康福祉学科3年次 相談援助実習：8月～9月
8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	教育学科3年次 教育実習Ⅰ(幼・小)： 幼稚園 8/20～9/7 小学校 8/20～9/14
8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	
9/3	9/4	9/5 学園創立記念日	9/6	9/7	9/8	9/9	心理カウンセリング学科4年次 精神保健福祉援助実習：8月～9月
9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	こども学科2年次 保育実習(保育所)：8月～9月
9/17 敬老の日	9/18	9/19	9/20 オリエンテーション	9/21 ①	9/22	9/23	こども学科2年次 保育実習(施設)：9月～12月
9/24 振替休日①	9/25 ①	9/26 ①	9/27 ①	9/28	9/29 大学祭	9/30	
10/1 ②	10/2 ②	10/3 ②	10/4 ②	10/5 ②	10/6	10/7	
10/8 体育の日	10/9 ③	10/10 ③	10/11 ③	10/12 ③	10/13	10/14	
10/15 ④	10/16 ④	10/17 ④	10/18 ④	10/19 ④	10/20	10/21	
10/22 ⑤	10/23 ⑤	10/24 ⑤	10/25 ⑤	10/26 ⑤	10/27	10/28	
10/29 ⑥	10/30 ⑥	10/31 ⑥	11/1 ⑥	11/2 ⑥	11/3 文化の日	11/4	
11/5 ⑦	11/6 ⑦	11/7 ⑦	11/8 ⑦	11/9 ⑦	11/10	11/11	
11/12 ⑧	11/13 ⑧	11/14 ⑧	11/15 ⑧	11/16 ⑧	11/17	11/18	
11/19 ⑨	11/20 ⑨	11/21 ⑨	11/22 ⑨	11/23 勤労感謝の日⑨	11/24	11/25	
11/26 ⑩	11/27 ⑩	11/28 ⑩	11/29 ⑩	11/30 ⑩	12/1	12/2	
12/3 ⑪	12/4 ⑪	12/5 ⑪	12/6 ⑪	12/7 ⑪	12/8	12/9	
12/10 ⑫	12/11 ⑫	12/12 ⑫	12/13 ⑫	12/14 ⑫	12/15	12/16	
12/17 ⑬	12/18 ⑬	12/19 ⑬	12/20 ⑬	12/21 ⑬	12/22	12/23	天皇誕生日
12/24 振替休日	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	
12/31	1/1 元旦	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	
1/7 ⑭	1/8 ⑭	1/9 ⑭	1/10 ⑭	1/11 ⑭	1/12	1/13	
1/14 成人の日	1/15 11/23の振替休日	1/16 ⑮	1/17 ⑮	1/18 ⑮	1/19	1/20	
1/21 ⑯	1/22 ⑯	1/23 補講・試験日(火)	1/24 補講・試験日(水)	1/25 補講・試験日(木)	1/26	1/27	
1/28 ⑰	1/29 補講・試験日(火)	1/30	1/31	2/1	2/2	2/3	
2/4 補講・試験日(月)	2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	健康福祉学科(介護)2年次 介護実習Ⅰ：2/12～3/11
2/11 建国記念の日	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	心理カウンセリング学科3年次 精神保健福祉援助実習：2月～3月
2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	教育学科3年次 保育実習Ⅰ(保育所)：2月
2/25	2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	教育学科3年次 保育実習Ⅰ(施設)：3月
3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	
3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	
3/18	3/19 学位記授与式	3/20	3/21 春分の日	3/22	3/23	3/24	
3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31	

講義要綱 SYLLABUS の利用にあたって

この冊子は、2018（平成30）年度に開講される授業科目の概要が記載されています。

授業の概要や到達目標をよく確認して授業を選択する参考にしてください。シラバスには、授業の担当教員名や、単位数等の他、次のような事項が記載されています。シラバスに記載された内容をよく理解し、授業に臨んでください。

- ・ 授業のねらい
- ・ 到達目標
- ・ 授業計画
- ・ 準備学習の内容（事前・事後の学習）
- ・ 使用するテキスト（教科書）や、参考書
- ・ 成績評価の方法（どのような基準で評価が決まるのか）
- ・ 質問への対応（連絡先など）
- ・ その他（履修に当たっての特に注意すべき事項が記載されています）

《学習形態》

「授業の計画」各回の右欄に書かれている記号は学習形態を表し、授業の進め方、指導方法を表しています。

学習形態の用語説明

記号	学習形態	概要説明
A	講義	
B	演習	
C	実験	
D	実習	
E	実技	
F	プレゼンテーション	学生が、指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習・実習等を行い、そのことについて他の受講生や教員等聴衆の前で発表する学習方法である。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものやポスターセッションなど様々である。発表後は、聴衆からの質疑に応答する。〇〇発表会、〇〇報告会等を含む。
G	レポートライティング	与えられたテーマや課題について調査や実験等を行い、調べた事実やデータを分析して、その過程と結果・考察などを文書にまとめる。あるいは、授業で学習したことを自分の言葉でまとめたり、自分の経験したことや体験したことなどについて、感じたことを理由とともにまとめるなど、知識や経験を自分の力で文書で表現する学習方法である。
H	グループワーク	教員から与えられた課題に対して、小グループ（3人から6人程度が一般的）内で共同作業やコミュニケーションをとりながら学修を進めていく協同学習である。コミュニケーション能力、メンバーが役割を分担した上で相互に協力・協働して課題に取り組む姿勢、自分の意見を主張する力と他人の意見を受け入れる力、決められた時間内に課題を解決して答えを出す力などを養成し、学生が社会に出てから活動するために必要な力を身につける。

I	ディベート	ある公的な主題について異なる立場（肯定側と否定側）に分かれ議論することを通して、第三者を客観的な証拠に基づいて説得するコミュニケーション形態（討論をする形式）である。 ディベートを通して学生の思考が活性化され、自分の意見や問題意識を持ったり、より論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。
J	事例研究	ある事例について調査・研究し、問題の所在・原因を究明し、どのように対処するか解決策を見出す学習活動である。指導者は、学生の個別または集団研究に対して、研究の場を設定し、具体的な助言をしたり、事例を紹介したり、研究をコーディネートしたりして、学生の研究を導く立場で関わる。
K	ワークシート	授業前あるいは授業中に、学習の課題や問題等を提示した用紙を用い、調べたことや理解したことを確認し、理解の深化を促す学習方法である。また、講義の内容を書き込めるように準備された用紙等で理解の確認を行ったり、ワークシートに記入された個々の考えをもとに、ペアやグループワークで話し合い、学習内容を共有することもある。
L	ふり返し	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。
M	フィールドワーク	社会調査における情報収集技法の一つである。研究者が直接現場へ出かけ一定期間滞在し、人々の生活に密着しながら出来事を観察・記述し、その空間の社会的構造をリアルに分析しようとするものである。 アクティブ・ラーニングの視点から、本学での「フィールドワーク」とは教員が提示したテーマや課題等について、学生が直接現場へ出かけ実地調査や研究等を通して、より深く分析し課題解決に向かうことをねらいとした学習形態である。
N	ロールプレイ	現実にかかる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）をする学習方法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。

教育課程表

臨床心理学専攻 専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数		教員名	展開他	免許・資格	ページ
		2年次					
		前	後				
臨床心理学領域							
家族心理学特論	講義		2	河 岸 由 里 子	人間福祉学専攻同時展開 集中講義	[臨]臨床心理士_選必	49
障害者心理学特論	講義	2		風 間 雅 江	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	50
心理療法特論	講義	2		入 江 智 也	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	51
学校臨床心理学特論	講義		2	山 谷 敬 三 郎		[臨]臨床心理士_選必	52
基礎心理学領域							
認知心理学特論	講義	2		阿 部 純 一	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	53
発達心理学特論	講義	2		伊 藤 崇		[臨]臨床心理士_選必	54
実 習							
臨床心理実習	実習	←②→		小 坂 守 孝	事前事後指導を含む	[臨]臨床心理士_必修	55
				飯 田 昭 人			
				入 江 智 也			
				風 間 雅 江			
				澤 聡 一			
				新 川 貴 紀			
				齊 藤 美 香			
	谷 中 みゆき						
研究指導							
修士論文指導Ⅱ	演習	②		担 当 教 員	集中講義		56
修士論文指導Ⅲ	演習		②	担 当 教 員	集中講義		57

人間福祉学研究科
臨床心理学専攻
2年次

科目名	家族心理学特論			授業形態	講義	単位数	2
教員名	河岸 由里子						
授業の目的	ねらい	対人援助の仕事をするには、家族の理解は不可欠である。人は一人で生きてはいない。子どもであればその保護者が、大人であっても育てた親がいる。それぞれの家族は現状に大きく影響している。特に昨今家族は複雑化している。さまざまな家族の形を含め、家族とは何か、家族心理学の発展から家族療法の技法までを事例を多く活用し、演習やDVDを用いながら学び、家族理解を深める。					
	到達目標	(1)家族を理解することの重要性について認識する。 (2)家族療法の技法の基礎を習得する。 (3)家族支援者としての柔軟性と臨機応変さを身につける。					
授業の計画	第1回	【テーマ】 家族心理学が担うもの 【計画内容】 家族心理学の歴史と理論について基礎的なところを学ぶ。 【準備学習の内容】 家族心理学について、自分なりにどのようなものか文献などを確認しておくこと。				A、H	
	第2回	【テーマ】 家族とは何か 【計画内容】 様々な家族の形態を事例を通して学びながら、家族とは何かについて考える。 【準備学習の内容】 自分なりに、どのような家族の形態があるかについて考えておくこと。ジェノグラムを書けるようにしておくこと。				A、B、J	
	第3回	【テーマ】 家族の見立て1 【計画内容】 家族を理解するうえでカギとなる概念について学ぶ。 【準備学習の内容】 家族理解の鍵となるものは何かを考え、何故それらが鍵となりうるのかについても自分なりに考えてみる。				A、H	
	第4回	【テーマ】 家族の見立て2 【計画内容】 家族関係のアセスメントの仕方、考え方について学ぶ。 【準備学習の内容】 自分の家族の家族関係について考えておくこと。自分の家族について開示したくない場合は、代わりに家族を用意しておくこと。				A、B、H	
	第5回	【テーマ】 家族システム論 【計画内容】 家族システム論の発展と概要について学ぶ。 【準備学習の内容】 システムとはどんなものか、社会における様々なシステムについて考えておくこと。				A、B、G、H	
	第6回	【テーマ】 家族の成り立ち カップル・夫婦 【計画内容】 家族がどのように作られていくか、個からカップルへの変化とその際に起こる様々な問題や軋轢についてとカップル支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 個がカップルになるとどうなるか、変化について考えてみる。				A、H	
	第7回	【テーマ】 親になるということ 【計画内容】 夫婦・カップルが誕生し、そこに子供が生まれることで起こる家族の変化について学ぶと同時に、乳幼児期の子育て支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 子どもを持つことの意味、子育てについて考えてみる。				A、H	
	第8回	【テーマ】 小学生の子育て 【計画内容】 子どもが大きくなっていくにつれ、他家族との関係や、家族内に様々な変化が生まれる。どのような変化がおき、人はそれにどのように対処しているのか、そして我々支援者にできるこの時期の支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 自分の小学校時代を振り返り、家族と自分の関係、他の家族との関係を考えておくこと。				A、H	
	第9回	【テーマ】 思春期・青年期の子育て 【計画内容】 子育ての終盤に向かい、家族はどうあるべきか。またどのような問題が起こりやすいか。最近の社会情勢から見えるものも含め、その支援について学んでいく。 【準備学習の内容】 子育ての最終目標は何かについて考えておくこと。				A、H	
	第10回	【テーマ】 老年期の家族 【計画内容】 高齢化社会の時代において、老年期の家族が抱える問題と支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 自分の身の回り的高齢者について、その家族とどのような関係性を保っているかを見ておくこと。				A、B、G、H	
	第11回	【テーマ】 家族療法の理論 【計画内容】 家族支援において、家族療法は必要不可欠ともいえる。家族療法の理論についてその概要を学ぶ。 【準備学習の内容】 家族療法について何かしら本を読んでおくこと。				A、B、H、N	
	第12回	【テーマ】 家族療法の技法について学ぶ 【計画内容】 家族療法には様々な技法があるが、その主たるものについて学び、それらを活用して家族支援をどのようにしていくかを事例を通じて学ぶ。 【準備学習の内容】 変化の処方についてどのようなものがあるか、文献をあたってみる。				A、B、H、N	
	第13回	【テーマ】 家族の構造理論を家族理解に生かす 【計画内容】 家族の構造の中で鍵となるものは何か。何をみて、どこに変化の処方をしていくかについて考える。 【準備学習の内容】 第5回で学んだ家族システム論について復習しておくこと。				A、B、H、N	
	第14回	【テーマ】 実践編1 【計画内容】 実際に様々な家族面接をロールプレイで実践していく。 【準備学習の内容】 今までの授業の復習をしておくこと。				B、H、N	
	第15回	【テーマ】 実践編2 【計画内容】 家族理解のための技法をロールプレイで実践する。 【準備学習の内容】 今までの授業の復習をしておくこと。				B、G、H、N	
テキスト	プリントを使用します						
参考書	中金洋子・野末武義・布芝靖枝・無藤清子、2008年、『家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助』、有斐閣ブックス、9784641183674 団士郎、2013年、『対人援助職のための家族理解入門 家族の構造理論を活かす』、中央法規、9784805838600						
成績評価の方法	配分	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	補足	40%		40%		20%	
質問への対応	質問は授業時間内で対応します。授業でわからないこと、疑問に思ったことはその場ですぐ質問してください。						
資格	[臨]臨床心理士_選必						
その他	集中講義で長丁場になりますが、頑張ってください。また、講師が一方的に話す授業ではなく、全員参加の授業を考えておりますのでワークなど積極的に参加してください。						

科目名	障害者心理学特論		授業形態	講義	単位数	2	
教員名	風間 雅江						
授業の目的	ねらい	福祉領域での心理臨床において必要とされる視座および専門的知識について学ぶ。乳幼児期から高齢期の全ての年齢段階にわたって、心身に何らかの障害をかかえた場合の心理的諸問題を中心に、その基礎的知識(用語、定義、分類、原因、発達と心理的影響)を概説し、障害児・者に対応する際に求められる、心理的支援のあり方について学ぶ。さらに、児童および高齢者への虐待、介護、家族支援についての専門的素養を高めることを目的とする。					
	到達目標	(1)障害によって生じる特有の問題と、人間として普遍的な心のはたらきの両方をよくふまえ、専門知識を習得する。 (2)児童および高齢者の福祉領域での心理的支援について現状を把握し、支援の実践を学ぶ。 (3)生活基盤をみすえた心理的支援の実践について理解する。					
授業の計画	第1回	【テーマ】 障害の概念 【計画内容】 国内外における障害のとらえ方について最近の動向を把握し、障害とは何か、何が問題なのか等について考える。 【準備学習の内容】 各自がこれまで障害児・者の心理について学んだことを整理しておくこと。				A、B	
	第2回	【テーマ】 発達と障害 【計画内容】 人間の発達の特殊性、発達診断、胎生期以降さまざまな発達段階で生じる可能性のある障害について概説する。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B	
	第3回	【テーマ】 自閉症スペクトラム障害 【計画内容】 自閉症スペクトラム障害の診断基準、過去から現在に至るまでのとらえ方の推移、心理的特性、治療教育ならびに心理臨床等について概説し、支援のあり方について考える。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B、J	
	第4回	【テーマ】 注意欠陥/多動性障害(ADHD) 【計画内容】 診断基準、タイプ、症状、心理的特性などについて学び、家庭や学校等での対応や援助について考える。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B、J	
	第5回	【テーマ】 コミュニケーション障害 【計画内容】 言語発達遅滞、音韻障害、吃音、失語症、音声障害等のコミュニケーションの障害について概説し、その心理的理解と支援について考える。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B、J	
	第6回	【テーマ】 高次脳機能障害 【計画内容】 脳外傷や脳血管障害等に伴う脳神経の損傷を原因とするさまざまな高次脳機能障害や、神経心理学的な機能障害としての、注意障害、易疲労性、記憶障害、遂行機能障害等について概説する。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B、J	
	第7回	【テーマ】 聴覚障害・視覚障害 【計画内容】 聴覚障害および視覚障害が心理的側面に及ぼす影響、および、心理的支援について考える。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B、J	
	第8回	【テーマ】 障害の受容と適応 【計画内容】 先天性および後天性、それぞれにおける、障害の受容へのプロセス、障害受容困難なケースへのアプローチ等について学ぶ。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B	
	第9回	【テーマ】 障害と就労支援 【計画内容】 さまざまな障害により社会参加に支障をきたす人の就労に影響を与える要因は何か、就労を可能にするうえで何が求められるのか、事例を通して検討する。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B	
	第10回	【テーマ】 児童福祉と心理臨床 【計画内容】 子どもと親への心理的支援、子育て支援について、児童福祉の理念や現代日本における支援のシステム、心理臨床のあり方について学ぶ。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B	
	第11回	【テーマ】 虐待と心理臨床 【計画内容】 児童虐待の現状、被虐待児への心理的支援、親への支援、世代間伝達等について学ぶ。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B	
	第12回	【テーマ】 高齢者福祉と心理臨床 【計画内容】 高齢期に求められる心理的支援のあり方について学ぶ。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B、J	
	第13回	【テーマ】 福祉職のメンタルヘルス 【計画内容】 児童、高齢者、障害児・者にかかわる専門職への心理的支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B、J	
	第14回	【テーマ】 認知症の心理臨床 【計画内容】 認知症について、病型による分類、基本症状と周辺症状、心理的理解と支援について学ぶ。 【準備学習の内容】 資料をあらかじめ読んでおくこと。				A、B、J	
	第15回	【テーマ】 まとめ 【計画内容】 講義全体の総括を行う。障害児・者、児童、高齢者、一人一人の生活をみすえた心理的支援について、多面的な観点を通して考える。 【準備学習の内容】 講義全体で学んだことを各自ふりかえり、疑問点等を挙げておくこと。				A、L	
テキスト	授業時にプリント資料等を配付します						
参考書	先崎章、2011年、『精神医学・心理学的対応リハビリテーション』、医歯薬出版、9784263213773 他にも講義のなかで随時、紹介します						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分	40%		60%			
補足							
質問への対応	直接研究室来訪(事前にメールでの連絡願います)、あるいは、メールでの質問を受けます。 E-Mail:mkazama@hokusho-u.ac.jp						
資格	[臨]臨床心理士_選必						
その他							

人間福祉学専攻2年次
臨床心理学研究科

科目名	心理療法特論			授業形態	講義	単位数	2
教員名	入江 智也						
授業の目的	ねらい	臨床心理学的援助法は多様である。本講義では、特に治療的効果が認められている技法について注目し、その理論および実践について、具体的な臨床事例や援助計画の立案を通じて、理解を深める。特に、(1)児童等を対象とした応用行動分析に基づく援助法、(2)認知行動療法に基づく援助法、の2点について、体験や事例を通じて、当該技法の実践手続きを習得する。					
	到達目標	(1)行動分析学の考え方を理解し、アセスメントに用いることができる。 (2)応用行動分析に基づいた援助法を立案、実践することができる。 (3)認知行動療法に基づいた援助法を立案、実践することができる。 (4)自身の臨床心理学的援助を客観的に評価することができる。					
授業の計画	第1回	【テーマ】有効性が実証された心理療法の概要 【計画内容】治療的効果が科学的に実証されている心理療法を概観する。 【準備学習の内容】シラバスを熟読しておくこと。					A
	第2回	【テーマ】行動分析学の歴史的背景 【計画内容】さまざまな心理療法の背景にある行動分析学の諸理論を学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、G
	第3回	【テーマ】応用行動分析(1):理論的背景 【計画内容】応用行動分析において登場する諸理論および諸技法について学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、G
	第4回	【テーマ】応用行動分析(2):児童への適用 【計画内容】応用行動分析を用いた児童および親への支援について学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、G
	第5回	【テーマ】応用行動分析(3):援助計画の立案① 【計画内容】模擬事例に対する前半グループの援助計画を発表する。ディスカッションを通じて、応用行動分析に沿った援助計画の立案方法について学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、F、G、H
	第6回	【テーマ】応用行動分析(4):援助計画の立案② 【計画内容】模擬事例に対する後半グループの援助計画を発表する。ディスカッションを通じて、応用行動分析に沿った援助計画の立案方法について学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、F、G、H
	第7回	【テーマ】認知行動療法(1):歴史的・理論的背景 【計画内容】認知療法および行動療法が提案された背景について学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、G
	第8回	【テーマ】認知行動療法(2):認知行動療法における諸技法 【計画内容】認知行動療法において用いられる諸技法について体験および学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、G
	第9回	【テーマ】認知行動療法(3):認知行動モデルとケースフォーミュレーション 【計画内容】クライアントの抱える問題に応じた認知行動モデルの紹介とケースフォーミュレーションの方法について学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、G
	第10回	【テーマ】認知行動療法(4):うつ病に対する認知行動療法 【計画内容】うつ病に対する認知行動療法について、事例を通じて学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、G
	第11回	【テーマ】認知行動療法(5):不安症に対する認知行動療法 【計画内容】不安症に対する認知行動療法について、事例を通じて学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、G
	第12回	【テーマ】認知行動療法(6):介入計画の立案① 【計画内容】模擬事例に対する前半グループの介入計画を発表する。ディスカッションを通じて、認知行動療法に沿った介入計画の立案方法について学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、F、G、H
	第13回	【テーマ】認知行動療法(7):介入計画の立案② 【計画内容】模擬事例に対する後半グループの介入計画を発表する。ディスカッションを通じて、認知行動療法に沿った介入計画の立案方法について学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、F、G、H
	第14回	【テーマ】認知行動療法(8):近年の認知行動療法 【計画内容】第3世代の認知行動療法と呼ばれる技法(統一プロトコル、マインドフルネス認知療法等)について学習する。 【準備学習の内容】事前に配付する当該テーマの資料を熟読しておくこと。					A、G
	第15回	【テーマ】心理療法における効果判定 【計画内容】心理療法を実施する際に、自身の取り組みを評価する方法について学習する。 【準備学習の内容】これまでの講義資料等を再読しておくこと。					A、G、L
テキスト	講義内容に応じてプリント等を使用します						
参考書	講義内容に応じて適宜参考文献を紹介します						
成績評価の方法	配分	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	補足			50%		20%	30%
質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。						
資格	[臨]臨床心理士_選必						
その他							

科目名	学校臨床心理学特論		授業形態	講義	単位数	2	
教員名	山谷 敬三郎						
授業の目的	ねらい	学校生活における児童生徒の学習面、心理・社会面、進路面、及び健康面に関わる諸問題について、カウンセリング、コンサルテーション等の諸理論をふまえて、学校という場にふさわしい視点で対処するための理論と方法を活用できるよう実習を含めて展開する。特に実習では、「関わりづくりに関する実習」「傾聴実習」「カウンセリングプロセス・コンサルテーション・コーディネーションに関する包括的な実習」をとりあげ、人間関係の中で、子ども自身や援助者、また、組織の問題解決にあたる能力の基盤の獲得を目指す内容とする。					
	到達目標	(1)学校におけるカウンセリングの方法を習得する。 (2)学校におけるコンサルテーションの方法を習得する。 (3)学校におけるコーディネーションの方法を習得する。 (4)学校における心理教育的援助サービスの実践的課題についての知識・技能について習得する。 (5)子どもへの直接的な援助的かかわりについての基本的方法を習得する。					
授業の計画	第1回	【テーマ】オリエンテーション 学校カウンセリングの理論と方法 【計画内容】心理教育的援助サービスの基本的理論と方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第2回	【テーマ】学校で活用できるカウンセリングの理論と方法 【計画内容】認知カウンセリング、プリーセラビー、SEG、SST、マイクロカウンセリングの基本的方法を理解する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第3回	【テーマ】学校におけるコンサルテーション 【計画内容】校内委員会の運営、援助チームシートの作成について理解する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第4回	【テーマ】学校におけるコーディネーション 【計画内容】コーディネートの意味、校内資源の活用、専門機関との連携について理解する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第5回	【テーマ】学校における実践上の諸問題と対応 【計画内容】学級担任との連携、保護者への対応、学校組織への介入の方法について理解する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第6回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(1) 【計画内容】非言語的関わり技法(ペーシング、キャリブレーション)について習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第7回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(2) 【計画内容】エンカウンターについてのすすめ方を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第8回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(3) 【計画内容】ロールプレイング、心理劇のすすめ方を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第9回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(4) 【計画内容】質問技法、言い換え、励ましなどの技法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第10回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(5) 【計画内容】感情の反映、コミットメントの方法など、傾聴の方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第11回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(6) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第12回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(7) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第13回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(8) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第14回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(9) 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
	第15回	【テーマ】学校におけるカウンセリングの技術(10) まとめと確認 【計画内容】具体的に模擬実習を取り入れ、学校カウンセリング・コンサルテーションの方法を習得する。 【準備学習の内容】参考図書の該当部分を事前に読んでおく。	L				
テキスト	伊藤美奈子・平野直巳編著、2003年、『学校臨床心理学入門』、有斐閣アルマ						
参考書	学校心理士資格認定委員会、2007年、『学校心理学ハンドブック』、風間書房、9874759916256 國分康孝、2002年、『カウンセリングの理論』、誠信書房、4414403081 石隈利紀、1999年、『学校心理学』、誠信書房、4414301491						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			70%			30%
補足				レポート			レポート毎回
質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。						
資格	[臨]臨床心理士_選必						
その他							

人間福祉学専攻2年次
臨床心理学研究科

科目名	認知心理学特論		授業形態	講義	単位数	2	
教員名	阿部 純一						
授業の目的	ねらい	認知心理学の最新の知見を学び、人間の心理と行動の基盤となっている認知メカニズムについて理解を深める。感覚・知覚・記憶・学習・思考・言語などの認知諸機能の特性とメカニズムについて、どのようなことがどの程度まで説明されているのかを学ぶ。また、その説明がどのような方法でなされて来ているのかを学ぶ。					
	到達目標	(1)人間の認知諸機能の特性とメカニズムについて理解を深める。 (2)臨床心理学など他の心理学と認知心理学との関係について理解を深める。					
授業の計画	第1回	【テーマ】 心理学の中での認知心理学の位置づけ 【計画内容】 心理学は非常に幅の広い学問であり、基礎科学的な心理学、応用的な心理学、人文学的な心理学など様々な細目の心理学を含む。その中での認知心理学の位置づけと役割について理解を深める。 【準備学習の内容】 過去に学んだ各分野の心理学の内容について整理しておく。			A		
	第2回	【テーマ】 心理機能と神経基盤 【計画内容】 人間の心理と行動の生理的基盤の中心は中枢神経系である。近年の認知神経科学や認知神経心理学の知見について学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第3回	【テーマ】 視感覚 【計画内容】 生得的に、またモジュール的に備わる感覚のメカニズムについて学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第4回	【テーマ】 聴感覚 【計画内容】 前回の視感覚のメカニズムに続き、聴感覚のメカニズムについて学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第5回	【テーマ】 知覚 【計画内容】 感覚システムで処理された情報を利用しつつ対象の認識に至る知覚のメカニズムについて学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第6回	【テーマ】 注意と意識 【計画内容】 我々人間は感覚受容器に入力された外界からの情報をすべて意識する(できる)わけではない。ごく一部の情報だけが意識しない(できない)。この注意のメカニズムについて学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第7回	【テーマ】 記憶1 【計画内容】 もしも記憶の機能がなければ“自分”という存在もない。記憶のメカニズムについて学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第8回	【テーマ】 記憶2 【計画内容】 記憶に関する実験的研究の知見、記憶障がい症例研究の知見、記憶のメカニズムの説明理論などについて学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第9回	【テーマ】 学習1 【計画内容】 学習の能力があることにより、人間の心理と行動はより適応的に変化し拡大し、より複雑なものとなる。その学習のメカニズムについて学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第10回	【テーマ】 学習2 【計画内容】 学習に関する実験的知見と説明理論について学ぶ。また、それら基礎科学的な心理学の成果の臨床的応用について学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第11回	【テーマ】 言語 【計画内容】 人間という動物を特徴づける心理機能の第一は言語といえる。言語理解のメカニズムについて学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第12回	【テーマ】 思考 【計画内容】 問題解決や推論など、思考過程に関する知見について学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第13回	【テーマ】 知能 【計画内容】 知能とは何か、知能とはどう捉えられるべきか、について学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第14回	【テーマ】 認知と感情 【計画内容】 認知諸機能と感情との関係について学ぶ。 【準備学習の内容】 配付資料をあらかじめ読んでおく。			A、B		
	第15回	【テーマ】 まとめ 【計画内容】 提出されたレポートの講評と全授業のまとめを行う。 【準備学習の内容】 授業全体の内容を振り返っておく。			A、L		
テキスト	講義時に説明する						
参考書	スーザン・ノーレン・ホークセマ、他、2015年、『ヒルガードの心理学 第16版』、金剛出版、477241438X Susan Nolen-Hoeksema, et al., 2014年、『Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology, 16e』、Cengage Learning、1408089025						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分	40%		40%		20%	
補足							
質問への対応	授業中および授業後に質問を受け付け、対応します。メールによる質問も受け付けます。						
資格	[臨]臨床心理士_選必						
その他	学習への自主的意欲が基本です。						

科目名	発達心理学特論				授業形態	講義	単位数	2
教員名	伊藤 崇							
授業の目的	ねらい	国内における言語発達研究の歴史をたどる。具体的には、国内の学会誌(心理学研究、教育心理学研究、発達心理学研究)を対象として言語発達に関する論文をサーベイする。最終的には「日本における言語発達研究のこれまでとこれから」と題するレビュー論文をグループで執筆する。						
	到達目標	(1)特定のトピックについて学会誌をサーベイすることができる。 (2)グループワークを通してレビュー論文を執筆することができる。						
授業の計画	第1回	【テーマ】ガイダンス 【計画内容】進め方について説明する。受講希望者はかならず参加すること。 【準備学習の内容】シラバスを熟読すること。						A
	第2回	【テーマ】言語発達研究とは 【計画内容】言語発達研究に含まれるトピックについて説明する。 【準備学習の内容】第1回で示した資料を熟読すること。						A
	第3回	【テーマ】論文紹介(1) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第4回	【テーマ】論文紹介(2) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第5回	【テーマ】論文紹介(3) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第6回	【テーマ】論文紹介(4) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第7回	【テーマ】論文紹介(5) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第8回	【テーマ】論文紹介(6) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第9回	【テーマ】論文紹介(7) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第10回	【テーマ】論文紹介(8) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第11回	【テーマ】論文紹介(9) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第12回	【テーマ】論文紹介(10) 【計画内容】各自が調べてきた論文の概要を報告し合う。同時に、それぞれのトピックについてまとめる作業を進める。 【準備学習の内容】自分で選んだ論文の概要を説明する資料を準備する。						B、F、H
	第13回	【テーマ】論文をまとめる(1) 【計画内容】サーベイ結果に基づき、分担して1本の論文を執筆する。 【準備学習の内容】担当箇所を準備しておくこと。						G、H
	第14回	【テーマ】論文をまとめる(2) 【計画内容】サーベイ結果に基づき、分担して1本の論文を執筆する。 【準備学習の内容】担当箇所を準備しておくこと。						G、H
	第15回	【テーマ】論文をまとめる(3) 【計画内容】サーベイ結果に基づき、分担して1本の論文を執筆する。 【準備学習の内容】担当箇所を準備しておくこと。						G、H
テキスト	講義時に説明する							
参考書	講義時に説明する							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分補足		40%		50%	10%		
質問への対応	講師に対する質問などはメール(tito@edu.hokudai.ac.jp)にて行うこと。							
資格	[臨]臨床心理士_選必							
その他								

人間福祉学研究科
臨床心理学専攻2年次

科目名	臨床心理実習		授業形態	実習	単位数	2
教員名	小坂 守孝、飯田 昭人、入江 智也、風間 雅江、澤 聡一、新川 貴紀、斉藤 美香、谷中 みゆき					
授業の目的	ねらい	本実習では、「臨床心理基礎実習」(1年次)における学習を基礎として、さらに心理職として活動を行う上で必要な態度、技法を修得することを目的とする。学内における事前指導では、昨年度よりも参加度の高い現場実習を見通して、主にロールプレイによる面接のトレーニングとアドバイスを行う。その後、スーパーバイザーの指導を受けつつ、臨床心理センターおよび学外実習機関において軽症例の心理面接や集団療法、プレイセラピーを継続することにより、心理臨床活動の実際を体験する。また学内において学生の発表によるケースカンファレンスを行う。				
	到達目標	(1)心理臨床活動を行う上で、臨床家として望まれる態度、技術的能力について再考し、自分自身の資質、技量について問う姿勢を身につける。 (2)臨床現場での体験(出来事)を、自身からの視点ではなく対象者からの視点で捉え、考察できることを目指す。				
授業の計画	開講が通年であり、学内外において定時以外の内容もあり多様なため、以下概要と各学期の流れを示す。					
	<p>【概要】 現場実習に携わる準備として、主にロールプレイを用いた面接実習を行い、学内教員から助言指導を受ける。現場における実習としては、総合病院、精神科領域および心療内科領域の病院、および本学大学院臨床心理センターにおいて、軽症例の心理面接や集団療法、プレイセラピーに、主担当者もしくは補助的な担当者として参加するという体験をする。実習期間中をふくめ実習後は、事後指導として当2年次生、1年次生(「臨床心理基礎実習」「心理実践実習Ⅰ」)のケースカンファレンスに参加し、体験を振り返る機会を設ける。同時にカンファレンスにおける発表の方法、討議に参加する姿勢や方法についても習得する。</p> <p>【前学期】 前学期は、まず学内においてロールプレイを用いた事前指導を6時間(3時間×2回)行う。その後、それぞれの実習施設で学外実習を30時間(3時間×10回)行う。その間、臨床心理センターにて適切な軽症例がある場合には、適宜、心理査定、心理面接やプレイセラピー等を担当する。さらに、所定の実習施設とは別の学外施設における実習も適宜行う。 実習期間中、担当ケースについてスーパーバイザー(本学教員、および実習施設における指導者とは別の学外指導者)のスーパービジョンを受ける(最低基準として1時間×9回)。</p> <p>【後学期】 前学期と同一の施設において実習を継続するとともに引き続きスーパービジョンを受ける。所定の学外施設における実習時間数は前学期と同様30時間である。スーパービジョンは継続するため、通年では上記の9時間を超える指導を受けることになる。センターおよび所定の施設以外の学外施設での実習、実施時間数は前学期と同様である。実習と並行して、学内でケースカンファレンスを9時間(3時間×3回)行う。このケースカンファレンスには1年次生も参加する。さらに、1年次生の実習体験発表(3時間×2回)の討議に参加する。 臨床心理実習では、臨床心理基礎実習とは異なり、実習生は年間を通していずれか1つの学外施設および臨床心理センターで実習を行う。実習総時間は前・後学期でそれぞれ45時間、計90時間を基準とするが、基準時間を上回って行われることがある。</p> <p>【流れ】 第1回～第4回(学内実習) 現場実習に携わる準備として、学内にて主にロールプレイを用いた面接、学内教員からのアドバイスなどの学内指導を行う。 (担当:小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・澤聡一・新川貴紀)</p> <p>第5回～第19回(学内外の施設での実習) 学外実習機関の病院、および本学大学院臨床心理センターにおいて、軽症例の心理面接や集団療法、プレイセラピーに主担当者もしくは補助的な担当者として参加する。 (担当:小坂守孝・入江智也・飯田昭人・風間雅江・澤聡一・新川貴紀)</p> <p>第20回～第25回(スーパービジョン) 実習期間中、担当ケースについてスーパーバイザー(本学教員、および実習施設における指導者とは別の学外指導者)のスーパービジョンを受ける(最低基準:1時間×9回)。 (担当:村瀬嘉代子・斉藤美香・谷中みゆき)</p> <p>第26回～第30回(学内ケースカンファレンス) 学外実習後の事後指導として、当2年次生、および1年次生のケースカンファレンスに参加し、体験を振り返る機会を設ける。同時にカンファレンスにおける発表の方法、討議に参加する姿勢や方法についても習得する。 (担当:小坂守孝・飯田昭人・入江智也・風間雅江・澤聡一・新川貴紀)</p> <p>学内授業時:扱われるテーマを事前に予習し(例:カンファレンスで扱われる病名、心理療法等)、発表担当の場合には必要なレジュメを作成し意味ある発表となるよう十分に推敲すること。 臨床実習時:実習場面に望む前に、クライアントや実習先に関する必要範囲の情報を収集し、理解を深めておくこと。また、毎回、その日に現場指導者から受けたコメントを参考に振り返りを行い実習日誌を作成し、次回への手がかりとすること。</p>					
テキスト	授業時に、実習に関する手引きを配付します。また指導内容に応じて資料を配付します。					
参考書	指導内容、学習項目に則して、授業時に文献を紹介します。					
成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分		60%		30%	10%
	補足		所定の用紙あり			実習日誌綴
質問への対応	内容に応じて、直接面談、電話、メール等、適切に対応します。詳細は、初回授業時に説明します。					
資格	[臨]臨床心理士_必修					
その他	実習日程は、各実習施設により異なります。 実習先が決定後、各担当教員と具体的な打合せを行います。					

科目名	修士論文指導Ⅱ				授業形態	演習	単位数	2
教員名	担当教員							
授業の目的	ねらい	修士論文作成をねらいとする。以下の5つのプロセスにしたがって進める。 ①先行研究を熟読する。クリティカルリーディングを行い、問題意識を明確にする。 ②研究のテーマを設定する。 ③研究の方法を考え、研究計画を立案する。 ④データを収集する。 ⑤データ分析する。						
	到達目標	(1)問題意識を明確にし、研究テーマを設定する。 (2)研究の方法を考え、研究計画を立案する。 (3)データを収集し、分析する。						
授業の計画	【テーマ】	第1回:ガイダンス 第2回～第4回:先行研究のレビューと研究目的の明確化 第5回～第7回:合理的な研究手法と研究計画の立案 第8回～第9回:研究計画の発表 第10回～第13回:データの収集 第14回～第15回:データの分析とディスカッション						
	【計画内容】	第1回:修士論文作成のための手順、ポイントを概説する。 A、B、G 第2回～第4回:先行研究で得られている知見を整理し、新たに解明しようとすることを焦点化し、研究目的を明確に設定する。 B、F、G 第5回～第7回:目的に見合った合理的で倫理的配慮の検討がなされた研究手法を考案し、具体的な研究計画を立案する。 B、F、G 第8回～第9回:修士論文作成プランおよび研究計画を発表し、議論する。 B、F、G 第10回～第13回:データを収集する。 B、G 第14回～第15回:データの分析、分析結果の整理、仮説に照らした考察を行う。 B、F、G						
	【準備学習の内容】	第1回:「修士論文指導Ⅰ」で修得した内容をもとに、大まかな研究計画を作成する。 第2回～第4回:先行研究を収集し、何が明らかになっているのか、何が残された課題かを考え、研究目的を明確にする。 第5回～第7回:先行研究、具体的方法までも含めて、レポートを作成する。 第8回～第9回:研究計画、用いる研究手法の詳細についてレジュメおよびスライド資料を作成し、発表の準備を行う。プレゼンテーションを行い、質疑応答を通して、研究計画の精査および必要に応じた修正を行う。 第10回～第13回:研究手法に準じて、質問紙やインタビューガイド等の準備を行い、実際に調査を実施する。 第14回～第15回:収集したデータに対して、コンピュータ処理等を行い、分析する。						
テキスト	各担当教員より適宜指示します							
参考書	各担当教員より適宜紹介します							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分			60%		40%		
補足				レポート		発表		
質問への対応	各担当教員より説明します。							
資格								
その他								

科目名	修士論文指導Ⅲ				授業形態	演習	単位数	2
教員名	担当教員							
授業の目的	ねらい	修士論文の完成、最終的な研究成果を研究発表会や学会等で発表することをねらいとする。以下の7つのプロセスにしたがって研究成果をまとめる。 ①先行研究で得られた知見の整理を通して問題意識を明確に述べる。 ②研究のテーマと意義を明確にする。 ③合理的で妥当な研究方法を選択する。 ④データを収集する。 ⑤データ分析する。 ⑥論文を執筆する。 ⑦論文を発表する。						
	到達目標	(1)データを収集する。 (2)データを分析する。 (3)分析結果をまとめ、論理的に考察する。 (4)論文を執筆する。 (5)研究成果を発表する。						
授業の計画	【テーマ】	第1回:ガイダンス 第2回～第4回:データの収集 第5回～第6回:データファイルの作成 第7回～第8回:データの分析 第9回～第10回:結果をまとめ、論理的に考察する 第11回～第14回:論文を執筆し、完成させる 第15回:論文を発表する						A、B、F、G B、G B、G B、G B、F、G B、F、G B、F、G
	【計画内容】	第1回:修士論文完成にむけてのポイントを確認する。 第2回～第4回:データ収集のための準備を行う。 第5回～第6回:集めたデータに対して、量的研究あるいは質的研究それぞれに応じ、適切な分析手法によってデータファイル化あるいはコード化等を行う。 第7回～第8回:ファイル化やコード化等の加工がなされた量的あるいは質的データに対して、研究デザインに応じた分析を進める。 第9回～第10回:出力結果を図表等にまとめ、考察を行う。 第11回～第14回:得られた知見をもとに、論理展開の順序、事実と意見の区別に留意しながら、論文を作成する。ディスカッションを通して考察を深める。 第15回:修士論文発表会にむけてプレゼンテーションの準備を行う。						
	【準備学習の内容】	第1回:研究計画の精査と確認を行う。 第2回～第4回:実験材料の準備、質問紙の作成、調査依頼等を検討する。 第5回～第6回:データの確認、欠損値の処理等を行う。 第7回～第8回:出力結果およびについて、妥当な結果が得られたかどうか等を検討する。 第9回～第10回:何が明らかになったか、具体的事実を確認し、考察を行う。 第11回～第14回:得られた事実から、何がいえるか、何がわからないかを考える。論文執筆を進める。推敲を繰り返し、論理的で明解な表現になっているか等をチェックする。 第15回:研究発表にむけてレジュメやスライド資料を作成する。						
テキスト	各担当教員より適宜指示します							
参考書	各担当教員より適宜紹介します							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分			60%		40%		
	補足			レポート		口答発表		
質問への対応	各担当教員より説明します。							
資格								
その他								

講義要綱
SYLLABUS
北翔大学大学院

平成30年 4月 発行
北翔大学・北翔大学短期大学部
〒069-8511 江別市文京台23番地
TEL (011) 386-8011
FAX (011) 387-1542

